

## 試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名：湿地性カラー新品種「千葉 C2 号 (Brilliant・Bell)」の育成			
〔要約〕疫病抵抗性と早期開花性を持つ、湿地性カラー新品種「千葉 C2 号」を育成した。「千葉 C2 号」は、既存の主要な品種よりも花が小ぶりで、茎が細く、アレンジメントやブーケに使いやすいことから、新たな需要が期待できる。また、収穫本数が多い上、単価の高い 10～12 月にも収穫できる。			
キーワード 湿地性カラー、疫病抵抗性、早期開花性、品種育成、千葉 C2 号			
実施機関名	主 査	農林総合研究センター 暖地園芸研究所 野菜・花き研究室	
	協力機関	JA きみつ、君津農業事務所	
実施期間	2013 年度～2018 年度		

### 〔目的及び背景〕

君津地域の湿地性カラーは昭和 63 年頃から発生した疫病のため、従来の慣行品種「チルドシアーナ」から疫病抵抗性の「ウェディングマーチ」に品種を転換した。しかし、「ウェディングマーチ」は開花が春に集中し、需要期の 10～12 月に切り花の収穫が少なく、花茎が太い等の問題がある。そこで、安定した疫病抵抗性と早期開花性を持ち、産地としてバリエーションを増やせるような特徴を持つ優れた湿地性カラーの品種育成が望まれている。

### 〔成果内容〕

- 1 湿地性カラー新品種「千葉 C2 号」は、種子親を「ウェディングマーチ」、花粉親を「マジョリーホワイト」とする系統で、花（苞）はややクリームがかった白色である（写真 1）。
- 2 「千葉 C2 号」の切り花は、既存品種の「ウェディングマーチ」及び「アクアホワイト」に比較してやや小ぶりで、花茎も細く、アレンジメントやブーケに使いやすい（写真 1、表 1）。
- 3 「千葉 C2 号」の疫病に対する抵抗性の程度は、抵抗性品種の「ウェディングマーチ」に劣るが、「アクアホワイト」よりも強い（表 2）。疫病に汚染された現地圃場においても問題なく生育し、定植 2 年目及び 3 年目の収穫本数は、「ウェディングマーチ」及び「アクアホワイト」に比較して多く、早い時期から開花する早生品種である（図 1）。

### 〔留意事項〕

### 〔普及対象地域〕

県内全域の湿地性カラー生産者

[行政上の措置]

[普及状況]

令和3年秋から切り花の市場出荷が始まった。産地を交えて出荷量の増加に向けた取組を行っている。

[成果の概要]



写真1 左から「千葉C2号」、「アクアホワイト」、「ウェディングマーチ」の花（苞）

表1 「千葉C2号」及び慣行品種の切り花品質

品 種	切り花長 (cm)	花(苞)の長さ (cm)	花茎の太さ (cm)	花(苞)の色
千葉C2号	70.6	10.4	1.0	NN155A
アクアホワイト	66.4	11.2	1.2	NN155C
ウェディングマーチ	78.8	13.1	1.7	NN155A

注1) 君津市内の現地2か所で定植2年目に得られた切り花を調査した平均値  
切り花長は得られた切り花全てを、苞は平成28年4月15日以降の切り花を調査  
花茎の太さは花茎中央部の長径を調査  
2) 花(苞)の色はRHSカラーチャートによる

表2 「千葉C2号」及び慣行品種の疫病発病程度

品 種	疫病発病程度		
	場内疫病汚染圃場		現地圃場
	平成24年度	平成25年度	平成26年度
千葉C2号	1	3	3.5
アクアホワイト	—	—	5.0
ウェディングマーチ(抵抗性品種)	2	—	1.0
チルドシアーナ(罹病性品種)	6	—	6.0

注) 疫病発病程度は16cmポット植えの株を供試、場内は汚染圃場に1か月以上置いた後、根の腐敗程度を次の7段階で評価し、指数を示した (n=1)  
0: 発病無し、1: わずかに腐敗、2: 50%未満、3: 50%程度、  
4: 50%以上、5: 全体的に腐敗、6: 完全に腐敗して脱落  
現地は平成26年11月にポットの底を抜いて圃場に置き、翌年3月に同様に調査した (n=4)

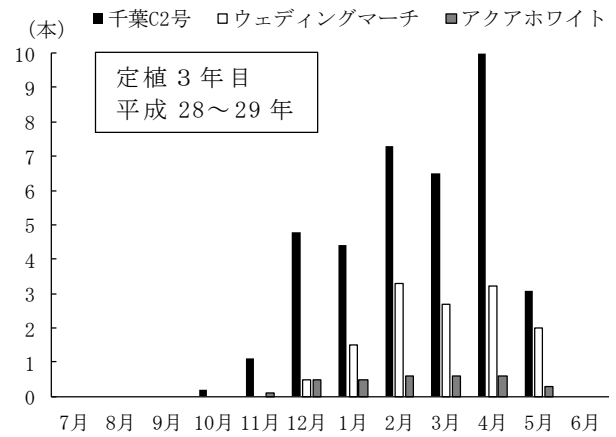
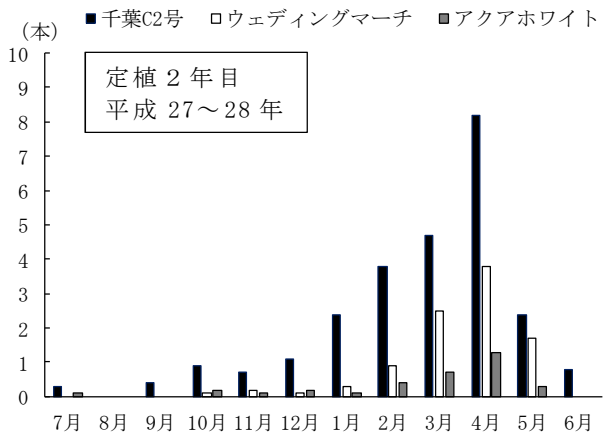


図 1 「千葉 C2 号」及び慣行品種の月別株当たり収穫本数

- 注 1) 君津市内の疫病に汚染された現地圃場 2 か所 (調査株数は 4 株と 6 株) の平均値  
 2 か所とも、肥沃な土壌を好む「アクアホワイト」には適さない圃場条件  
 2) 株養成のため、定植 1 年目は収穫せずに 2 年目以降から収穫するのが通常である

[発表及び関連文献]

令和 3 年度試験研究成果発表会 (花植木部門)

[その他]

- 1 プロジェクト研究事業「千葉県の新たな時代を切り開くオリジナル品種の開発・定着促進事業」(平成 25～30 年度)
- 2 平成 24 年度試験研究要望課題 (提起機関: 君津農業事務所)